

平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	国際熱核融合実験炉(ITER)推進経費	担当部署	軍縮不拡散・科学部	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度		担当課室	国際科学協力室	室長 菅宮 真樹				
会計区分	一般会計	施策名	II-3 原子力の平和的利用及び科学技術分野での国際協力					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第2～6項	関係する計画、通知等	イーター計画(イーター協定)					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	エネルギー源としての実現可能性を実証するためのイーター計画を推進する意思決定機関であるイーター理事会及び運営諮問委員会と、イーター計画を支援・補完するフローダー・アプローチ活動の運営委員会に国際科学協力室長及び担当者を派遣し、国際協力面でも人類にとっても大きな重要性を持つイーター計画の推進に寄与するとともに、我が国の国益を反映させる。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	イーターの本部は仏カダラッシュに決定され、施設を建設中。フローダー・アプローチ活動は青森県六ヶ所村と茨城県那珂市にて実施されることとなり、既に施設を建設し、研究を開始している。イーター計画は設計から完了までが35年に及ぶ壮大な計画であり、政治的にも困難な課題を抱えつつ進められることから、外交的見地からの参加が不可欠。なお、核融合炉が実現されれば、ほぼ無尽蔵にある海水を燃料として温室効果ガスも高放射性廃棄物も生まずに効率よくエネルギーを取り出せることから、地球温暖化やエネルギー・資源問題を解決し得る究極のエネルギー源となる。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算の状況	当初予算	3	4	3	3	3	
		補正予算	—	—	—	—	—	
		繰越し等	—	—	—	—	—	
		計	3	4	3	3	3	
	執行額	4	1	3	—	—		
執行率(%)	113.1%	25.4%	98.0%	—	—			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)	
	我が国の外交にとり有益な形でイーター計画が実施されるよう他極に積極的に働きかけ、イーター理事会において我が国の意向が反映された内容でのRoD(決定事項の記録)合意。		成果実績	件	2	2	3	
			達成度	%	100	100	100	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
	国際協力、イーター機構と加盟国実施機関との協力調整など外交的見地からの対応を目的とした、イーター計画における最高意思決定組織であるイーター理事会(通常年2回開催)への我が国代表としての参加。		活動実績(当初見込み)	回	2 (2)	2 (2)	3 (2) 注:臨時理事会が開催され、計3回となった。	— (2)
単位当たりコスト	539,442(円/人)		算出根拠	合計:2,697,210円(旅費総額)÷5人(出張人数)				
平成23年度(単位:千円)予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	職員旅費	2,690	2,719	事業見直し、単価見直しによる増				
	文化人等派遣旅費	0	470					
計	2,690	3,189						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>国際的枠組みの中で実施しているイーター計画の遂行には、国際協力、イーター機構と加盟国実施機関との協力調整など外交的見地からの対応が必要不可欠である。平成22年上半期においてはイーター計画のスケジュールやコスト等に関するベースライン文書につき参加国の合意が達成されず、当省の関与の必要性がますます増大したが、年に5～6回開催されている各種会合の中から当省として真に参加すべき会合を取捨選択した上でイーター理事である国際科学協力室長を出席させており、これ以上出張回数を減らすことは困難。平成22年7月にベースライン文書の合意が達成されたところ、今後はベースライン文書に記されたスケジュールやコスト等に従って事業が進められる必要があり、今後当面は事業の進捗に問題が生じないよう、また、問題が生じた場合にそれを解決するよう外交的努力を傾注することとしたい。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	—		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
—			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入

外務省
3百万円

{ 国際会議参加出張旅費 }



A. 国際会議等出席旅費
出張者(5名):3百万円

{ 国際会議参加出張旅費 }

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補
足する)(単位:百万円)

支出先上位10者リスト

A.国際会議等出席旅費

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	個人A	臨時イーター理事会出席	0.8		
2	個人A	第7回イーター理事会出席	0.7		
3	個人B	イーター理事会準備会合出席	0.6		
4	個人A	第6回イーター理事会出席	0.4		
5	個人C	イーター運営諮問委員会出席	0.3		
6					
7					
8					
9					
10					